

ついてまず見ていく。⁴ こうした方法により、地域レベルでの朝鮮人の中等教育要求について、具体的に明らかにすることができると考える。地域社会における初等学校の一定の「普及」・定着の実態⁵があり、その裏付けの下に、地域の人々の切実な教育要求として植民地下朝鮮人の中等教育機関設立運動が展開されていたことを明らかにする。そのことが本研究のねらいである。

1 金泉郡金泉面の成立とその人的特色

(1) 行政区域——慶尚北道金泉郡金泉面

本節では、学校が設立される基盤としての「地域」に焦点を当て、金泉高普が設立された金泉郡および郡内の各面について、当時の行政区域の変遷の面から概観する。

周知のように、植民地初期の1913年12月に総督府令で地方行政区画の改編が打ち出され翌14年4月から施行された。朝鮮全道では、13道12府317郡4322面が13道12府220郡2531面となり、全道的な郡・面の統廃合の一環として、金泉郡も成立している。

金泉郡は、従来の金山郡(16面)・知禮郡(9面)・開寧郡(8面)の3郡33面と星州郡薪谷面を合併させて新しく成立した郡であり、郡内には20の面が置かれた。⁶ 慶尚北道全体では1府(大邱府)23郡となったが、金泉郡は其中で、第7位の広さであった。郡人口の点では1928年現在の数値で、朝鮮人約14万人・日本人約2000人・その他外国人151人、合計14万人となっており、道内で5番目に人口が多い郡である。⁷ 道庁所在地である大邱と金泉は1905年以降京釜鉄道で結ばれており、両者は鉄道で約70kmの距離にあり、一方金泉から京城までは約271kmであった。

金泉面は、旧金山郡金泉面から新しく金泉郡金泉面となって、面は七つの「町」(南山・旭・本・錦・城内・黄金・大和)で構成され、金泉郡庁が置かれたのはその中の南山町であった。1917年には道内で、浦項とともに金泉面も「特別指定面」となった。特別指定面は、朝鮮人と日本人が多数混在する地域でその状況が「府に近い面に限」られ、面長には日本人を任命できた。当時2512面中で1%に満たない23面のみが指定された。金泉は京釜線沿線で多数の日本人が居住する場所として指定されている。⁸ さらに、1931年4月から施

4 研究史的には、全道レベルでの普通学校への就学要求については一定の蓄積がされてきており、一方で、日本側の教育政策が中・高等教育を軽視するものであったことは定説になっている。

5 ただし、義務教育が実施されなかった朝鮮において、就学者が一部にとどまったことはいうまでもない。筆者の推計では、統計上把握できる最終年である1943年の公立普通学校就学率は、男子61.8%・女子29.4%であった(古川宣子「植民地近代社会における初等教育構造——朝鮮における非義務制と学校「普及」問題」駒込武・橋本伸也編『帝国と学校』昭和堂、2007年、155頁)。

6 越智唯七『新旧対照朝鮮全道府郡面里洞名称一覧』(1917年)12頁。なお、金泉郡の面積は「65.55方里」(慶尚北道編纂『自大正8年至昭和3年 慶尚北道統計年報』1930年)となっており、1里が約3.9kmであるから、998.6km²となる。どの程度の広さであるかをイメージするために仮に正方形で考えると、31.6km(8.1里)四方ほどの広さになる。各面の広さも、20面でその平均値をとると、1面は約50km²、約7.1km四方ほどであった。

7 同上、『自大正8年至昭和3年 慶尚北道統計年報』。

8 孫禎陸『韓国地方制度・自治史研究(上) 甲午更張〜日帝強占期』(一志社、1992年)167頁。

行された地方制度改編では「面」から「金泉邑」に昇格した。面の中で人口が多く商工業が発達した面が邑になったとされ、全道で 41 ある邑の一つであった。普通学校が 1 面に 1 校の割合で設置される政策（1 面 1 校政策）の最終年である 1936 年には、金泉郡は 1 邑 16 面 172 町洞里となっており、1938 年には金泉邑に金陵面の 7 洞が編入され邑領域が拡大している。

（2）金泉面の朝鮮人・日本人比率

1928 年の朝鮮人と日本人の構成を見てみると（表 1 参照）、慶北全体および金泉郡は、朝鮮人がともに 98% であり、日本人は前者 2%・後者 1.5% であり、金泉郡全体は慶北全体の値とほぼ同じである。

しかし、金泉郡の金泉面のみの数値では、朝鮮人 86%・日本人 13% で、郡平均値とは約 10% の差があり、日本人が人口の 1 割以上を占めていた。一方、慶北の道庁所在地である大邱府の場合は、朝鮮人 69% で日本人が 30% である。金泉面はそこまで日本人の比率は高くないが、日本人比率の小さくない「都市化」しつつある空間であったといえよう。

表 1 1928 年慶尚北道の人的構成

	朝鮮人	日本人	その他	計	朝鮮人%	日本人%
慶北全体	2,224,016	45,953	2,071	2,272,040	98	2
大邱府	61,457	26,534	618	88,609	69	30
金泉郡	136,535	2,097	151	138,783	98	1.5
金泉面	11,807	1,814	141	13,762	86	13

出典：慶尚北道編纂『自大正 8 年至昭和 3 年 慶尚北道統計年報』1930 年。

2 金泉郡金泉面の「学校」普及状況

（1）「学校普及」政策と金泉郡の公立普通学校

植民地朝鮮の教育政策で、総督府が「学校普及」上、最も重視したのが初等教育を実施する普通学校（1938 年からは小学校、41 年からは国民学校と改称）であった。初等教育分野では、植民地教育行政上で「植民地学校制度」を形成する「学校」である普通学校および私立各種学校と、「学校」とは認定されない、すなわち学校制度の枠外に置かれた教育機関として、書堂および私設学術講習会が存在した。金泉高普設立期成会の母体となった金陵青年会は「金陵学院」を 1920 年代初めから運営していたが、これは行政側から私設学術講習会として位置付けられた教育機関⁹だった。教育行政上、初等教育の横のレベルでは、普通学校を中心としてその外側に私立各種学校を、そして「学校以外」の機関として私設学術講習会・書堂を位置付けていたわけであり、学校制度上の縦の接続は、普通学校から高等普通学校へと、初等・中等教育が連続するようになっていた。

9 『東亜日報』1928 年 2 月 13 日。